

南相馬市鹿島区真野地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- FOEAS（地下水水位制御システム）ほ場活用による大豆の収量・品質の安定化を目指す。
- 地域で合意形成を図り、水稲・大豆のブロックローテーションを適正に実施するとともに、農用地利用改善団体の農地集積調整により作付面積拡大を図る。
- 水稲・大豆のブロックローテーション体系の推進を行う。

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【R3年作付面積】水稲：46.8 ha、大豆：6.9ha、牧草：7.0ha、畜産：70頭
- H17年より大豆を導入し、水稲、大豆のブロックローテーションに取組む
- 基盤整備を契機に、R2年からFOEASほ場で大豆を作付け



大豆収穫作業の様子

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた品種選定>

- H28年に「里のほほえみ」を試験的に導入。
- 脱粒性や青立ちが少なく、作業性がよいことから、H30年に全面積品種転換。

<品目別に団地化したブロックローテーションの実施>

- 作期が異なる品目を組み合わせたブロックローテーションを行うことで、労力分散、適期作業を実施。
- 南相馬市鹿島区の基盤整備実施3地区で担い手に位置づけられ、大豆ほ場の団地化、面積拡大に取り組む

<FOEASを活用した大豆栽培の実施>

- FOEASほ場に大豆を作付けし、播種後及び開花期～子実肥大期を中心に灌水処理を実施。



FOEASによる開花期以降の畝間灌水の様子

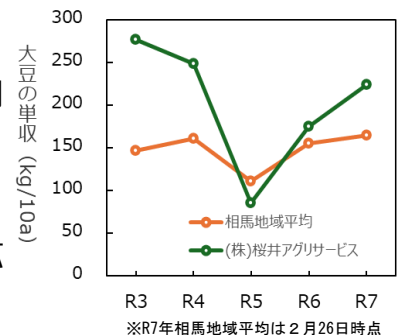
4 取組成果

<FOEASほ場活用等による収量・品質確保>

- FOEASほ場での適切な灌水処理、ブロックローテーションの実施、適期作業の徹底により、概ね相馬地域平均を上回る単収を確保。
- 令和7年産大豆 単収 224kg/10a、上位等級比率 92.0%

<作付面積の拡大>

- 農用地利用改善団体による地域の合意のもと、大豆の作付面積を拡大。（R3年：6.9ha → R7年：11.2ha）



5 残された課題

- 帰化アサガオ類等の難防除雑草の発生が増加しているため、体系防除の実証が必要。
- 水稲・大豆輪作体系における収益性の検証が必要。